

第2回 西京区・洛西地域の新たな活性化懇談会 議事録

1 日時

平成27年2月4日(水) 15時30分～17時15分

2 場所

西京区洛西支所第2・3会議室

3 出席者

懇談会委員

会長	小石 玖三主	西京区自治連合会会長
会長代理	片山 千恵子	新林学区社会福祉協議会会長
委員	江村 寛計	京大桂ベンチャープラザ ビジネス・インキュベーション・コーディネーター
〃	城戸 俊明	京都おやじの会副会長, 大原野おやじの会
委員 (アドバイザー)	高田 光雄	京都大学大学院工学研究科教授
委員	富田 千果子	京都市立西総合支援学校 学校運営協議会副会長, 人づくり21世紀委員会西京区世話役
〃	中谷 香	西京区洛西支所地域力推進室長
〃	長谷川 一樹	行財政局総務部長
〃	南 寛	公立大学法人京都市立芸術大学事務局長
〃	村上 薫	大枝学区自治連合会会長
〃	村下 恒雄	NPO法人らくさいライフスタイル代表
〃	森 紳二郎	高島屋洛西店店長
〃	安枝 英俊	洛西ニュータウン創生推進委員会アドバイザー

4 議事概要

(1) 住民円卓会議等の報告

会長：

- ・ 本日は委員の皆様御多忙のところ御出席いただき、感謝する。定刻より少し早いですが、ただ今から「第2回西京区・洛西地域の新たな活性化懇談会」を開催する。
- ・ なお、本日、入木田委員と八木委員は、所用のため欠席という連絡をいただいている。
- ・ 昨年の7月11日の第1回活性化懇談会以降、10月と12月に住民円卓会議を開催した。10月は西京区17学区・地域の各自治連合会の会長・副会長等に、12月は西京区内に在住又は通勤、通学する方から公募のうえ参加いただいた。本日は、この住民円卓会議の報告等をうけ、今後の取組について、議論していきたい。
- ・ 早速だが、議題1の「住民円卓会議等の報告」について、事務局から説明をお願いします。

事務局：

- ・ それでは、議題1の「住民円卓会議等の報告」について、説明させていただく。昨年の7月11日に第1回の活性化懇談会を開催した。1ページの資料1に議事録を付けているが、懇談会の中では西京区と洛西地域の現状について説明し、この懇談会で検討していく事項について、意見交換をお願いした。御意見としては、「児童数が減っており、学校が維持できるのかという問題がある。」「人に来てもらえる何か、定住してもらえる何かが必要である。」などといった「少子化・人口減少にどう取り組むか」といった御意見、「西京の豊かな自然をまちづくりに活用すべき。」「住んでいる人も楽しく、満足感を持てるようなまちづくりが必要。」などといった「まちの魅力づくりが必要」といった御意見をいただいた。さらに、地域の幅広い方々からの御意見をお聴きするため、自治連等の役員の方々や西京区にお住まいの方やお勤めの方等から参加者を公募し、「西京区・洛西地域の魅力とこれからのまちづくり」をテーマとして、住民円卓会議を開催した。
- ・ それではここで、住民円卓会議の概要を報告したい。

－事務局 資料2に基づいて説明－

事務局：

- ・ 住民円卓会議の概要は、ただいまのとおりであるが、この他、第1回活性化懇談会でいただいた御意見の中に、「検討を進めていくに当たっては、10年後の人口シミュレーションなど、この地域を知る情報をもう少し示していただければ、考えやすいのではないか。」というものがあつた。この御意見に対して、事務局のほうでデータを集めたので、その御報告もさせていただく。

－事務局 資料4に基づいて説明－

事務局：

- ・ 前後して申し訳ないが、資料3は2回の円卓会議の参加者に意見を付箋に書いていただいた。それをすべてデータ化した資料になる。これも参考に見ていただければいいと思う。以上、議題1の「住民円卓会議等の報告」ということで、住民円卓会議と第1回活性化懇談会について御報告させていただいた。

会長：

- ・ ただいま事務局から、住民円卓会議等の報告があったが、住民円卓会議で参加者の御意見をお聴きになられていた委員の方もおられる。御感想等があれば御発言をお願いしたい。自然が多いということが出てきているが、公園など子供が遊べる場所が少ない。

委員：

- ・ 西京区全体としてくくられているが、西京区内17学区のうち、7校は西京区の西部で、10校は東部になる。東部は子供が多いが、西部では桂坂小以外は子供が減少傾向にある。そのため、一概に京都市平均と一緒にしては誤解が生じる。洛西ニュータウンでは、少子化傾向がもっと進んでいると理解した方がいいと思う。

委員：

- ・ ニュータウンと全体の数字は違うとのことだった。

委員：

- ・ 44ページの人口ピラミッドで、洛西ニュータウンの40～50代の男性人口がかなり少ないように見えるが、どういう理由なのかわかるか。グラフでは他の年代は同じようになっているが、40～50代が少ない理由があれば教えていただきたい。

委員：

- ・ 西京全体のグラフを見ても、30～34歳は女性が男性より多い。

委員：

- ・ 洛西ニュータウンの45～50歳の男性が500人強で、女性が800人くらい多い。特殊な理由があるのか気になる。

委員：

- ・ 40～54歳までが極端に違う。西京全体で見ても、少し女性が多い。相対的に男の方が少ないように見える。

委員：

- ・ 40～44歳頃の方は第二次ベビーブームの世代に当たる。ニュータウンで育ち、仕事の都合で外に出られる男性が比較的多い。女性は地元から通う方が多いと自分の周囲を見て思う。

委員：

- ・ 単身赴任が圧倒的に多いのか。

委員：

- ・ 単身赴任というよりは、男性は大学に行ったところで就職することが多く、戻ってこない。女性は比較的親の近くに住んでいる人が多いのがあるかもしれない。あくまでも、自分の周りを見ての話になる。

委員：

- ・ そういうことを踏まえた中で考えなければならない。

委員：

- ・ ニュータウンでいうと、高齢化もある。平成22年の国勢調査では、すでに京都市平均よりも高かった。西京区といえば、若いイメージがある。ニュータウンと大原野地区は高齢化が進んでいる。

委員：

- ・ この人口ピラミッド内のニュータウンのデータには、大原野・大枝は入っていないのか。

事務局：

- ・ 入っていない。洛西ニュータウンの人口のみである。

委員：

- ・ このグラフに大原野・大枝が入るともっと極端な数字になる。

委員：

- ・ 大枝・桂坂は若いので、全体を下げています。大原野を入れると、すでに平成22年で高齢化率が京都市平均を上回っている。団塊世代が65歳以上になると、もっと高齢化が進む。

委員

- ・ 若い人に住んでもらう必要がある。

委員：

- ・ 西京区全体にわたって活性化するという全体感は大事だが、そもそもの事の始まりは芸大跡地をどうするかだ。どこかで、全体よりは地域に近いところで問題を共有していかないと難しい面がある。今の意見は大原野・大枝地区と西京区内の違いについて関心が高い。地域と西京区全体でギャップがあるので、全体感だけではなかなか解消できない問題だと思う。そろそろ、この地域に関して活性化につなげる議論になればいいと思う。
- ・ 住民の意見を聞いて調査をした中で、そのうねりから問題提起や方向の提案などのたたき台が出れば、みんなで議論する進め方ができると思う。前回の議事録をこの場で出されても、短い時間で読み解いて、ここで話しあうのは難しい。そんな意見も出していただいて、議論ができればと思う。

会長：

- ・ 今の話で難しい部分はある。ただ、一つ間違っただけいけないのは、芸大跡地の問題だけに絞って、そこだけ変わればよいとなると、全体が崩れてくると思う。そのことも合わせた中で、これを機会に西京区全体や桂・洛西地区を掘り下げ

ることが大事だ。高齢化のこと、昼間人口が少なくベットタウンになっているのは産業が少ないことがある。やむをえないが、そこも工夫する必要がある。おっしゃっているように、前もって資料を見ていないからわからない部分はある。

委員：

- ・ 資料3について、班は西京区の東、中、西の地区など地域別に分け、その班の意見を見れば地域特性が分かるようになってきているのか。あるいは、団体別になっており、団体別の意見に集約されているのか。班によって意見が違う印象があるので、班分けの根拠をご説明いただきたい。

事務局：

- ・ 1回目の円卓会議では地域が固まらないようにバラバラにした。2回目の円卓会議では受付順に機械的に班を分けた。そのため、班の意見のまとめを見ても地域特性が出るわけではない。

委員：

- ・ 了解した。資料3から資料2へと圧縮されているが、もう少し地域の具体的な課題などあったと思う。この資料3の扱いはどうなっているのか。これはまとめておしまいになるのか、次の議論に活かしていくのか、どのような感じなのか。折角ここまでされたのであれば、資料を読み解みとき、次回に有効な議論ができるのではないか。

事務局：

- ・ 今後の進め方について、後ほど説明する。

委員：

- ・ 資料3についてだが、資料2と3の関係性を教えてほしい。

事務局：

- ・ 資料2と3の関係については、資料3で出された意見を大きく分類し、それらをまとめたものが資料2になる。

委員：

- ・ 資料1の課題を受けた分析が資料4になる。できれば地図上にグラフを落としてもらえると、わかりやすくなる。統計的なデータが地図上にあると課題が見えてくる。作業の仕方もあるが、地図で情報を伝えてほしい。
- ・ 内容では仕事の問題が大事になる。雇用というと、必ずしも企業を誘致して人を集めると考える必要はない。ニュータウン内で展開するビジネスもある。洛西ニュータウンはそれほど規模が大きいのでできる事できない事がある。例えば、多摩ニュータウンでは高学歴の女性が多くおり、起業されている。また、人材がまとまってニュータウンの中で住民が中心になったビジネスもある。首都圏のニュータウンと同じような活動をしていても、関西のニュータウンはボランティアが多く、ビジネスは少ない。例えば、千里ニュータウンでは高齢者向け給食ボランティアがある。その土地での経済活動を展開すると、地域特

性を活かしたことができる。必ずしも、企業誘致だけで考えなくてもよい。また、働き方も変わってきている。先ほど、人口ピラミッドで人口が凹んでいることを話し合ったが、団塊ジュニアなどの次の世代には、働くことに関する価値観が違うことがある。新しい働き方に応じたほうがいい。あまり、雇用というのを単純化しない方がいい。このことは重要だと思う。女性が多いことも含め、地域の特性なので、それが人的資源になる可能性がある。また、洛西ニュータウンでも、合うもの・合わないものが当然あると思う。

- ・あとは、子育ての話もある。これも働く場所との関係が課題と思う。仕事と暮らしをセットでバランスよく支援できればと思う。単に働く場所があればいいのではなく、公共サービスやそれ以外で情報的な支援などがあるだけで働き方が改善される。それが住みやすさにつながる。

委員：

- ・第1回の円卓会議に出席したが、いろんな意見があった。小さな意見でも大事な部分がある。そういう意見も、大事にして次につないでいけたらありがたいと思う。他に意見はないか。

委員：

- ・色々なデータや、円卓会議の意見を吸い上げて資料化され、データがそろった状態になったが、大目的を決めないといけないのではないか。方向性がぼやけた感じがする。この中でいうと洛西地域の魅力あるまちづくりが大命題だと思う。そのためにどうするか、住民をもっと増やすなど一つの目的をもって意見を出していくべきではないか。個人的には、30代、40代の子供のいる世帯を徹底的に集める方策を考えるのが良いと思う。例えば、子供3人以上なら家賃をただにする位のことがあれば、マンションの入居が増え、まちもにぎわい、子供増えると思う。そういう風になるような意見が出るようにしないといけない。自然が大事でも、人がいないと廃れてくると思う。この会にはいろんな人がいるので、様々な意見・知恵が出ると思う。人に住んでもらうために目的を特化したほうが良いと思う。
- ・空き家率はかなりあるのではないか。老朽化やエレベーターのないマンションが数多く、問題もある。高層階に住んでいるご年配の方で、荷物を3回に分けて家に運ばれるのを見ると気の毒になる。住宅環境に気を付けないといけない。

(2) 今後の懇談会の進め方(案)、検討テーマ(案)

会長：

- ・続いて、議題2の「今後の懇談会の進め方(案)、検討テーマ(案)」について、事務局から説明をお願いします。

事務局：

- ・それでは、議題2の「今後の懇談会の進め方(案)、検討テーマ(案)」について、説明させていただく。53ページの資料5を御覧いただきたい。54ペー

ジに「今後の懇談会の進め方（案）について」として、まず今年度は、先ほど説明させていただいたように住民円卓会議を2回開催し、「地域の魅力とまちづくり」ということで御意見をお伺いした。これを踏まえ、本日の第2回懇談会では、今後、議論を進めるテーマについて、検討していただきたいと考えている。

- ・ 次回の第3回懇談会から来年度の27年度にかけては、テーマに基づいて、課題やそれらに対する方策など、具体的な議論を懇談会で進めていただき、28年度には、その議論を踏まえ、まちづくりの方向性について、4回程度の懇談会で議論していただき、取りまとめたいと考えている。なお、小石会長からは、27年度末の段階で、それまでの取組状況を市長に報告したいとの御意見をいただいている。
- ・ 資料の下の段の住民意見の聴取であるが、引き続き住民の方々への御意見も聴取したいと考えている。聴取の方法は、例えば地域ごとや年代別の住民円卓会議など、テーマに沿った最適な手法を検討し、実施したいと考えている。今年度から27年度にかけて記載している事業者アンケート調査の実施については、この後、別途説明させていただく。
- ・ なお、現在京都市では、芸術大学の移転整備基本構想の策定作業を進めている。この基本構想は、移転の基本的な方針や移転までの大まかなスケジュールなどを示すものである。市民意見の募集を行ったうえで、今年度中に策定する予定としており、来年度の28年度には、基本構想を更に具体化した基本計画を策定する予定としている。
- ・ 次のページを見ていただきたい。今後議論を進めるテーマの案になる。住民円卓会議や西京区の現状を踏まえ、事務局で今後の検討テーマ案を作成した。これまでの御意見を整理させていただき、資料の左側にあるように、「豊かな自然」、「観光」、「雇用」、「地域コミュニティ」など、14個のグループに分類した。さらにこれらを青色、緑色、赤色の3種類にグループ分けをしたが、まず青色は、「豊かな自然」、「農産物」、「観光」などの御意見から、「多くの人を訪れてもらえるまちに」というテーマを、次に緑色は、「雇用」、「子育て環境」、「交通」などの御意見から、「多くの人に住んでもらえるまちに」というテーマを、最後に赤色は、「商業」、「地域コミュニティ」、「スポーツ」などの御意見から、「誰もがいきいきと活動するまちに」というテーマを、それぞれ設定してはどうかと考えている。それぞれのテーマを一言で言うのであれば、青色は「交流」、緑色は「定住」、赤色は「活動」という言葉で表現できるのではないかと思う。赤色の「活動」については、「交流」と「定住」の両方にまたがる概念であると考えている。また、これらのテーマ案は芸大跡地活用の方向性の議論にも、つながっていくものと考えている。説明は以上である。

(3) 意見交換

会長：

- ・ 続いて、議題3の「意見交換」になる。これまで事務局から説明のあった案件について、委員の皆様、御意見をお願いしたい。27年度の終わりには方向性を出して、まとめた形で市長へ報告を上げられたらありがたいと思っている。

委員：

- ・ 芸大は全面移転で決定しているのか。

委員：

- ・ 最終的には全面的に移転する。

委員：

- ・ 芸大の場合、音楽はともかくとして、陶芸等の美術関係は中心部よりも洛西の方がいいのではないかと。陶芸の窯を中心部に置くのはどうかと思う。京大や同志社・立命館・龍谷などの大学でもキャンパスが一部の所に固まってはいない。学部によって、いろいろな場所に分散している。芸大も、学生数は少ないが、全部移転する必要があるのか。一部を残して、これから先も学生に自由な創造活動できるのがいいのではないかと、外から見ていて思った。芸大としては、どのように考えているのか。

委員：

- ・ 大学院まで合わせて、1,000名強の学生で、2学部しかない。大きな大学のように、各学部に事務室はなく、2学部を事務員30名の1つの事務室で管理しているため分散は難しく、今のところ考えていない。

委員：

- ・ それぞれの学部に教育後援会があるが、そこでのご意見は何かあるのか。中心部に移転するのがいいとの意見なのか。

委員：

- ・ 教育後援会からはまとめて意見をもらう段階ではない。

委員：

- ・ わかりました。ありがとうございました。

委員：

- ・ 崇仁地区の土地は一気に更地にはならないが、更地になるのを待って一気に移転するのか、段階を踏みながらの移転か、どちらになるのか。

委員：

- ・ 崇仁地域の移転先については大きく3か所に分けている。このうち、崇仁小ある地区は、今すぐにでも使える状態である。京都駅に近い地区の市営住宅には、今も住んでいる方がおられ、その方たちへの建替えを進めている。移転するためには、住宅の移転が完了しなければならない。

委員：

- ・ 工事は段階的にならざるを得ないということか。

委員：

- ・ 最終的にはその方向になる。様々な事業が絡んでいるので、10年先がめどになると思う。スケジュールが固まり逆算して行けば、西京・洛西地域に関するまちづくりのスケジュールも出せるかと思う。

委員：

- ・ それが今年度末には決まるのか。

委員：

- ・ 今年度に構想を策定する予定であり、その中で明らかにする。

委員：

- ・ この前見学に行ったが、実際に街の真ん中に登り窯ができて、使えるのかどうかの問題もある。登り窯をやめると中身が変わってしまい難しい。基本的な部分は今年度中に方向が出るのか。

委員：

- ・ 今年度中には出る。

委員：

- ・ 我々も先のことを考えないと、悠長にはできない。

委員：

- ・ 地域の中で芸大が様々な活動をされているが、我々も非常に楽しみであり、より強く深く関係があったと思う。芸大が移転することで、今まで培ったものがなくなってしまうのは住民にとっては寂しいし、残念である。こちらにサテライト的な施設を作って活動・発表をし、芸術分野において地域と関係を生かし、つながることはありなのではないか。芸大のお考えはどうか。

委員：

- ・ 先の話はしにくい。例えば、音楽学部の発表は芸大の講堂だけでなく、西京区のウエスティや北文化会館、堀川の音楽高校でも行っている。色々な地域で行って、市民に楽しんでもらっている。そういった形で様々な場所での活動はこれからも行う。

会長：

- ・ 10年の間に深く切れないつながりを作りたい。そうでないと今までの30年間は何だったのかと思う。いい形でずっと継続して残る活動に持って行っていただきたい。また、色んな形で実行委員会ともつながっていただきたい。
- ・ 全体的に円卓会議でいろんな意見が出てきているが、絞り方の部分で限られたテーマでしかしておらず、掘り下げていない。こういう形で住民の意見を聞く円卓会議は次年度も必要だと思うのだが、事務局としてはどうか。

事務局：

- ・ 必要だと思う。いろんな手法をつかってお聞きしたい。

委員：

- ・ 手法はそんなに取らなくてもいいと思う。洛西地域の人口減少や学級数の減少

など悲観的なデータが出ているが、洛西周辺のまちづくりに関わっている身からすると、新しいまちづくりの取り組みができてきている感じになっている。どういう事かという、洛西地域の人は洛西地域で活動する、大原野地域の人は大原野地域で活動するのがこれまでであった。しかし、最近では、洛西地域の人が大原野の資源を使つての活動や、大原野・大枝地域の人が洛西地域で活動するなど、洛西・大原野・大枝など学区別の境界を意識せず、大きな枠組みで魅力を発見し取り組んでいる人がある。今回の円卓会議では、地域の中で地域活動している人が中心で、そういう人の意見を拾っていたが、一方で、地域の枠を超えて活動し、ビジネスに結び付けている人も多くいる。その活動をきちんととらえ、議論する場に出すことで、双方の活動に結び付ける。その新しい流れを芸大移転後の活用に乘せないといけぬ。建物を作るだけでは意味がない。この中で、新しい流れについて我々が理解を深めるような情報提供しなければいけぬ。それは、我々委員が事務局に提供できるので、うまく委員を活用いただきたい。

委員：

- ・ 思っていることは、大原野で一生懸命色々な活動をされた成果をそこだけで終わらせずに、西京区全体に広めたい。ニュータウンでも色々な形で努力していただいている。それもそこだけに終わらずに、西京全体で広めていきたい。それが一番大事なのではないか。1箇所だけでなく、西京区全体として考える方がもっと大きなことができるのではないか。ふれあいまつりも全体を考えた中で方向性を変えていく必要があるのではないか。そういうことも考えているところだ。今までの成功事例を大きく広がるようにいい形で用いて、それによって住民が寄ってくる形を考えないといけぬ。自分たちで何もせずに、何とかなるわけではない。自分たち地域が何らかのアクションを起こさないと難しいだろうし、急に与えられたからできるわけでもないと思う。

委員：

- ・ 大原野の「風土・food」のイベントと洛西地域のイベントをあえて同時開催をし、シャトルバスで行き来ができるようにしたのも、思いつきではなく、そもそも大原野・洛西地域両方で活動されている方がいた結果だからだ。そういうところが見えてくるといい。

委員：

- ・ これをなんとか松尾などでもコラボしながら、西京区に行ったら何かあると言ってもらえるように変化させないといけぬ。そうすると、全体の人口が動き、かなりの動きになると思う。

委員：

- ・ 先ほどの雇用の話だが、ラクセーヌでは毎週木曜日に託児サービスを行っている。お母さん方が買い物中にお子様を預かるのだが、その預かる人は託児経験と資格を持った方である。通常だとボランティア形態が多いが、ラクセーヌで

は雇用する形になっている。話を聞くと、40～50代の女性が多く、ニュータウン内で働きたい人は多い。働く動機は、お金のためではなく、地域や人の役に立ちたいと思っている方が多い。最初は5名しか集まらなかったが、最終的には大原野や西京全体からも来てくれるようになった。そういう動きも今回の議論にできる資料になると思う。

委員：

- ・ 色々な形で企画してやっていかないといけない。言うだけではだめだ。

委員：

- ・ 色々な意見を聞いて、整理されていないが、「活性化」という言葉が懇談会の中で出されているが、皆さんはこの言葉にどういうイメージを持たれているか色々あるのかと思う。わたしは、産業振興が仕事なので、企業が活発な活動を行って、雇用が生まれ、西京区発の物品を生み出すことが役割かと思うが、先ほどの住民の構造を見ると、この地域が産業の集積地域ではない。ただ、人材を供給する土地柄になっているのかと考えると、皆さんが暮らしやすいような取組みが活性化のイメージだと思った。この辺りをどうとらえていいのかがわからなかったので発言しづらかった。そのあたり各委員の考え、円卓会議で得られた情報を議論されるのかと思った。

委員：

- ・ 江村委員のいうように、産業を生んでいかないとだめだと思う。大きなことを言っても不可能だ。小さくてもいいから産業を作り上げることも大事だと思う。例えば、みやげ物でもいい。それを加工する人が生まれ、他所には無いものを作ることにつながる。それが農業や他のことでも、つながればいい形に仕事が生まれると思ったりする。

委員：

- ・ 活性化を打ち上げ、みんなが同じ方向に進めるようにするのが1つの持って行く方法だと思う。活性化は人を集めるといった大きなテーマがあれば、先ほどもそこからビジネスや子育ての意見が出てきた。人を育てる時に、一人一人の子供について考え、家庭について考え、地域について考える。そういう風に、テーマを絞り目標を作る流れを作らないと意見交換をしても、集約できず前に進めない。どんなところ柱にすれぱうまくいくのかを先生方のご意見が欲しい。また、西京区が動いていけるようなテーマを出していただきたいと思う。買い物中の託児サービスもラクセーナだけでなく、西京区全体に広がっていけばと思う。そういったテーマごとのシステム作りがあればいいと思う。

委員：

- ・ 洛西ニュータウンの真ん中にラクセーナと高島屋があるわけだから、きちっとした形ができる事がまず大事だ。そして、実績を作って次へ進む。そこで一生懸命に取り組んでおられるので、頭が下がる思いだ。

委員：

- ・ 中学生の時に、芸大が移転してきた。去年あたりから移転に関するご意見があるかと思ったが、声が入ってこない。また、各自治会長も諦めている部分があり、大人しい。マンション経営している人も、商売をされている人も、芸大の移転で影響するが、現時点では厳しい意見がない状態だ。それではいけないということで、今年になってから大枝学区に対策委員会を設置し、いろいろな方から意見をいただいて、大枝学区のとしての総意を懇談会に提出したい。当然、懇談会委員になったので西京区全体で考える必要がある。大枝は小さな村だったが、今では2,600世帯になっている。小学校の夏祭りも2,000人強の人が来られる。自治会の加入率が減っているが、いろいろな形で若い世代に参加してもらい、自治会にも入ってもらい、大枝をもっと盛り上げていけばいいと思う。また、筍の産地なので、大枝をもっとアピールしていければと思う。西長町、東長町も同じ大枝地区だが、今は東長町には非常に多くの住宅が建って活性化している。ニュータウンの方は子供世代が出ていき戻ってこない状況だ。いかに若い世代に住んでもらえるようにアピールが必要になる。まだまだ自然があり、これだけ住宅ができたのに移転は残念だが、決まったのは仕方ない。これからどうするか。それが洛西地域の課題になる。

委員：

- ・ 活性化の方向性は2回の円卓会議で絞られた形になる。この形で方向性を決めた方がいいのかと思う。中身を分析し絞って、3回目懇談会以降の議論に持っていかないといけない。

委員：

- ・ 資料は住民の方からいい色々な意見を出してもらっているのだから、それを大事にしていきたいと思う。

委員：

- ・ 資料に書かれていることで、少数意見かもしれないが本当に大事なことがあると思った。2回の円卓会議のまとめがほとんど同じ内容なのが不思議だ。実際に見ていて、もっと違った印象があった。特に2回目は親子や子育て世代に来ていただいて、もっと違うまちづくりの話が出ていたと思う。そちらを取り上げていかないと、画一的な切り口だけは絵に描いた餅しかないと思った。1つのテーマを徹底的にする会議にするのも色々な意見が出ていいのかと思う。

委員：

- ・ 活性化は、結局は、「多くの人に来てもらえるまち」や「多くの人に住んでもらうまち」につながっていくと思う。これまでの意見もあるし、一方で、どうすればそこにたどり着くかという意見もある。そういった意見をまとめられればいいと思う。

委員：

- ・ 結論が最後ではなく、進めていく過程は大事だと思う。

委員：

- ・ 住む・育てるといった、そういう絞り方もある。

委員：

- ・ そういう意味では、空き家やUR賃貸や府営・市営住宅などの入居をこちらも一緒になって考える必要がある。他府県では、学生には市営住宅を格安で貸す代わりに地域イベントに参加する条件を付けているケースもある。また、高齢者は上の階の居住が大変なため、低層階に移りたい。しかし、引越しが大変なため、そのまま住んでいる方が多い。そのような人には行政が援助をし、空いた高層階に若い人を入れる工夫など、行政と一緒に空き家問題を考えたい。学生さんなどが住みやすく親しみやすくなれば地域に根付いて、人口も増えていくのではないかと。現時点で、空き家がどれくらいあるのかを次回までに資料を出していただき、話し合いたい。

委員：

- ・ 今の話は大賛成だ。地域を上げてのお祭りみたいなのが洛西の各地域にあるとつながりのあるまちになる。そこに住みたいと思う。自分が結婚する前の地元がそうだった。そういうイメージが洛西にあればいいのと思う。

委員：

- ・ 今あるハード部分を生かすことを考えないといけない。

委員：

- ・ 「住みたい」「来てもらう」のキーワードを大事にしながら1つのテーマを絞るのが大事だ。

委員：

- ・ 今の話はどうしたら住んでもらうかの話だ。どんな場所に人が来るか、子育てしたいかで考えるとまた違う。

委員：

- ・ 活性化懇談会だけでなく、円卓会議では違う意見があるかもしれない。若い人にも参加してもらって意見をいただけるかもしれない。小さくても一つの意見なので、それをピックアップする。人をどうしたら来てもらえるかを基本的に考え、足りない所を探るにはいい会議だと思う。イオン桂川には車より電車の人で来る人が多いらしい。西京区の人以外の方が客なのかと思う。そういったデータも大事なことだと思う。やっぱり高島屋だという人もいる。専門のものがあ、色々と聞くことができるのがある。高島屋にいくと西京の産物を買えるようになるのが面白いと思う。

委員：

- ・ 堀川商店街では、1階で仕事、2階が住居になっている。もしかすると、母子家庭が多いと思った。母子家庭向けのビジネスをしているのか、ぜひお伺いし

たい。

委員：

- ・ 商店街の真ん中のリノベーションをした。高齢者・障害者の支援と、住宅としての部分をリノベーションした。今の募集は、住宅が決まっておらず、子育て世帯を優先している。商店のほうはこれからの募集になる。両方の家賃負担をしなければいけないが、自分も商店街に入って、上の階に住むこともできる。子育て支援は色々なことが行われている。住むことだけでなく、働くこともふくめた支援ができるかどうかの仕組みをできればいい。

委員：

- ・ ライフバランスを考える西京区になればいいと思う。

委員：

- ・ 暮らしを総合的に考えるモデルとして、西京区でできればいいと思う。

委員：

- ・ これを機会に京都市の中のパイロット事業ができれば大変いいとおもう。

委員：

- ・ 空き家という資源が数多くあり、高齢化というテーマもある。

委員：

- ・ 資料3は面白い内容だ。整理しておしまいになるのではなく、できれば、個別の意見の関係性を結びつけるといい。まとめ方によって見え方が違う。

委員：

- ・ 資料3をしっかりと伸ばしていただきたい。2回目の時、学生が農業公園の提案をした。他所からでも人が来て、小学生の見学の受け入れができるなど、人を寄せることもできる。資料を皆さんで目を通していただき、的を絞った意見を吸い上げていくのが大事になる。

(4) その他

会長：

- ・ 最後に、議題4の「その他」について、事務局から何かあるか。

事務局：

- ・ 1点、説明させていただく。56ページの資料6を御覧いただきたい。第1回の活性化懇談会において、芸大近隣のマンションや飲食店等の経営者への意向調査として、まずはアンケート調査を実施することを事務局から御提案させていただき、御了承いただいた。また、詳細については、少しお時間をいただいて事務局で検討することにした。
- ・ アンケート調査の概要ということで、取りまとめている。まず、目的は、「芸大移転整備事業を進めていくうえでの参考とするため」「活性化懇談会での議論の参考とするため」としている。
- ・ 次に、対象者は、芸大近隣の飲食店やマンション等の経営者の方としている。

- ・最後に、アンケートの質問項目である。大きくは三項目、一つめは、「芸大移転の影響について」。これは、移転の影響があるのかないのか、あるとすればどのようなことか、といった内容のもの。二つめは、「芸大跡地の活用方法について」。これは、西京区にとってふさわしい跡地活用としてどのようなことを望むのか、といった内容のもの。三つめは、「西京区・洛西地域のまちづくりについて」。これは、西京区・洛西地域のまちづくりに御自由な意見をお聴きするもの。こういった内容をお聴きしたいと考えている。
- ・これにより、まずは飲食店やマンション等の経営者の方の芸大移転に対する意向を調査したいと考えているので、御意見をいただければと思う。
- ・なお、この間、検討を進める中で、学生マンションのオーナーの特定に時間を要することが課題として出てきており、アンケートの実施方法、例えば飲食店等の事業者とマンション経営者を分けて実施するなど、もう少し整理させていただきたいと考えている。
- ・また、このアンケート調査は地元の大枝学区で重点的に実施すべきものと考えているので、村上委員や小石会長にも御相談しながら、調査対象範囲や配布方法等を事務局で決めていきたいと思う。なお、詳細が固まれば、委員の皆様にもお知らせさせていただく。

会長：

- ・ただいまのアンケートの件、御意見はあるか。

委員：

- ・飲食店は大きなチェーン店が多く、そんなに影響はないかと思う。

委員：

- ・マンションは完全防音の音楽向け物件とそうじゃない物件がある。経営者アンケートは両方の物件を持っている方に均等に聞くのがいいかと思う。

会長

- ・それでは、事務局のほうで引き続き検討をお願いしたい。
- ・本日予定していた議題は以上だが、事務局は何かあるか。

事務局：

- ・先ほど議題2の「今後の懇談会の進め方(案)、検討テーマ(案)」のところで、芸大の移転整備基本構想の説明をさせていただいた。資料の54ページの下になる。活性化懇談会での取組は、芸大の移転の動きも見ながら進めていく必要があると考えているので、基本構想の案が取りまとめられたら、委員の皆様にもお送りさせていただく。

会長：

- ・最後に全体を通して何かあるか。ないようであれば、これで「第2回西京区・洛西地域の新たな活性化懇談会」を終了させていただく。

以上